



本市の特色とは？

国際色豊かでワクワク

する学校づくり

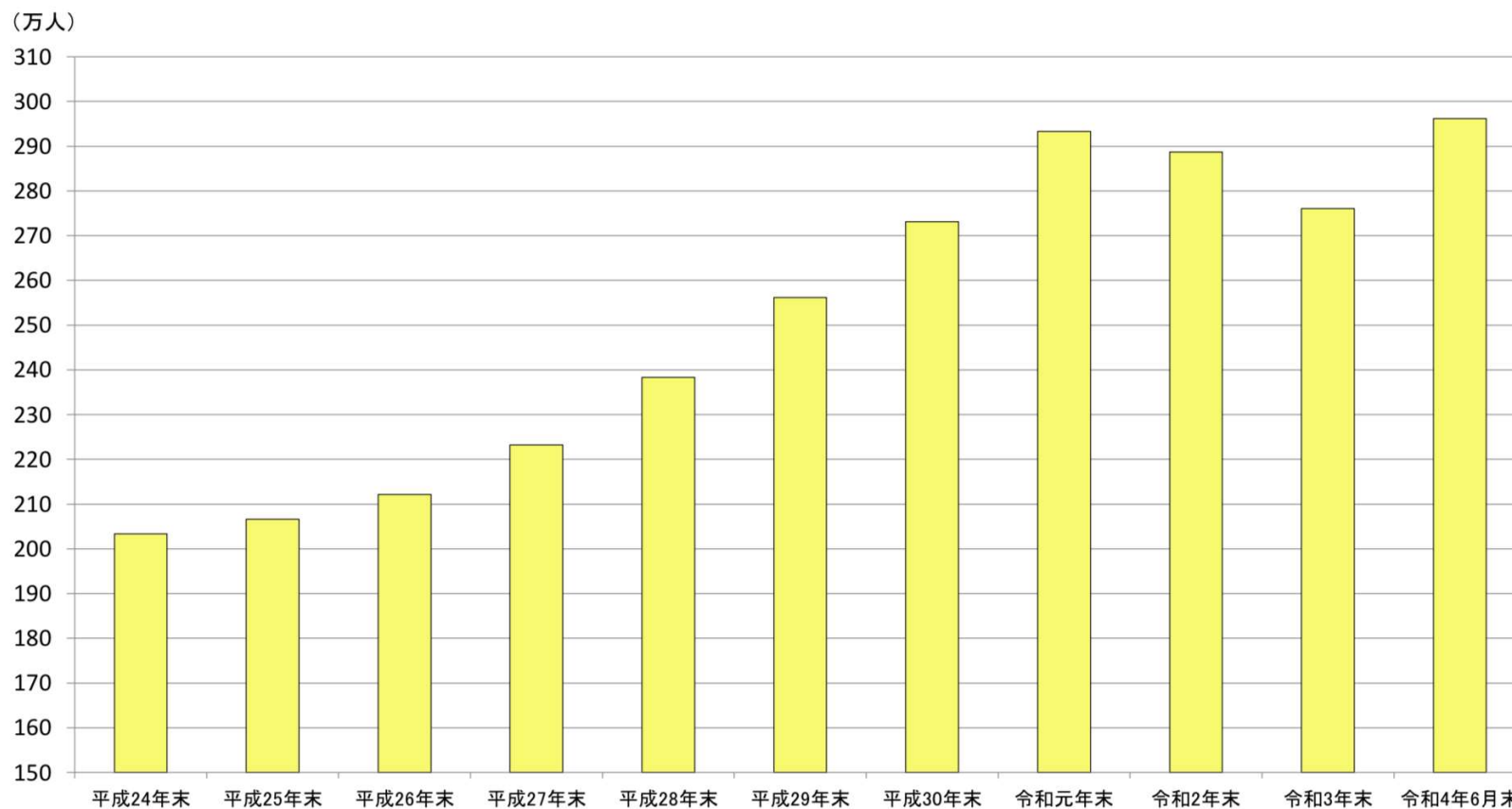
○現状・課題

市全体として人口減少が続くなかで、特に児童・生徒の減少が目立ち、それに伴い学校でも空き教室が増えている。

一方で、留学生を含む外国人は今後も増え続けると見込まれている。

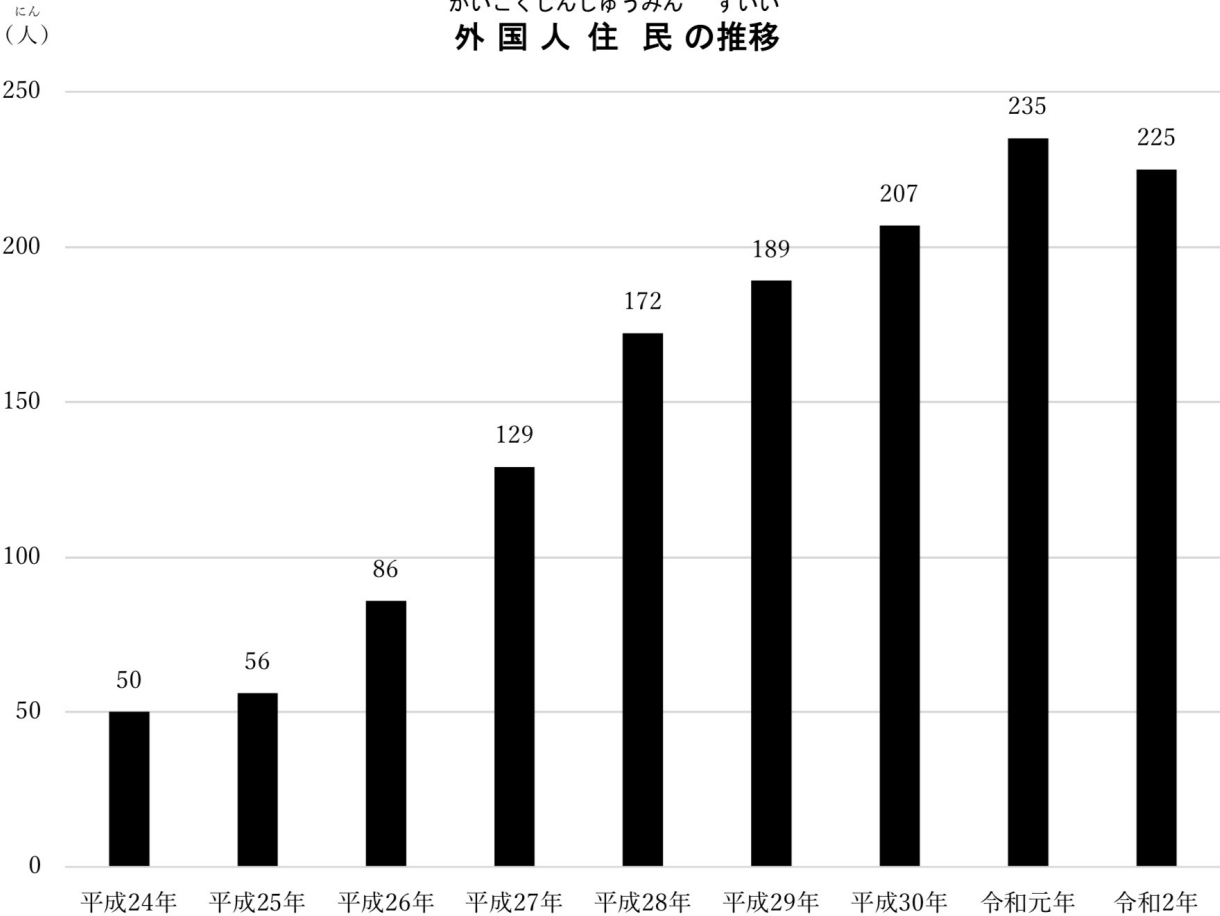
全国

【第1-1図】在留外国人数の推移(総数)



出典：出入国管理庁（2022）令和4年6月末現在における在留外国人数について

いちき串木野市

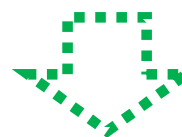


出典：いちき串木野市多文化共生推進プラン

○2040年（将来）の目指す姿

『多文化交流、グローバル教育の推進』

- ・ 市民と外国人が触れ合う機会の創出
- ・ 外国人が日本語を学びやすい環境の創出



学校の空き教室を活用して、外国人が本市の児童・生徒と触れ合いながら、日本語や日本での生活を学ぶ場を創出できないか？

○空き教室での外国人受入①

- ・ 空き教室を活用して、外国人が学習のほか
児童・生徒と触れ合うことができる
新たな日本語学校を設立する。

(参考) 北海道東川町では、国内初の日本語学校を設立 (2015年)
<https://www.mskj.or.jp/report/3480.html>



○空き教室での外国人受入②

- ・ 道徳などの一部の授業を一緒に学ぶほか掃除や学校イベントなどを一緒に行うことでお互いの文化や暮らしを体感して交流できる。



市民と外国人と共に学ぶことができる
『特色のある学校づくり』につながる

○期待出来ること

- ① グローバル人材の育成（児童/生徒）
日本の習慣や文化を学ぶ（留学生）
- ② 多文化共生 / 国際交流の拠点になる
- ③ 関係人口の創出 など

	政策ビジョン	政策プラン
1年後	児童・生徒と留学生が 共に学び合うことによって 生まれる成果を実証する	空き教室を留学生（神村）が 使用し、日本語の授業他、道 徳の時間に児童と交流する場 をつくる 1年目：小学校にて実施 2年目：中学校にて実施
2年後		
数年後	日本初の「児童・生徒×留 学生が共存する学校」を設 置、多文化共生のまちづく りのロールモデルとなる	市立学校内に市立の日本語 学校を設置する JETプログラムの活用 (ALT、CIR、SEA)

○なぜ「市立」なのか

① 国内初の事例だから

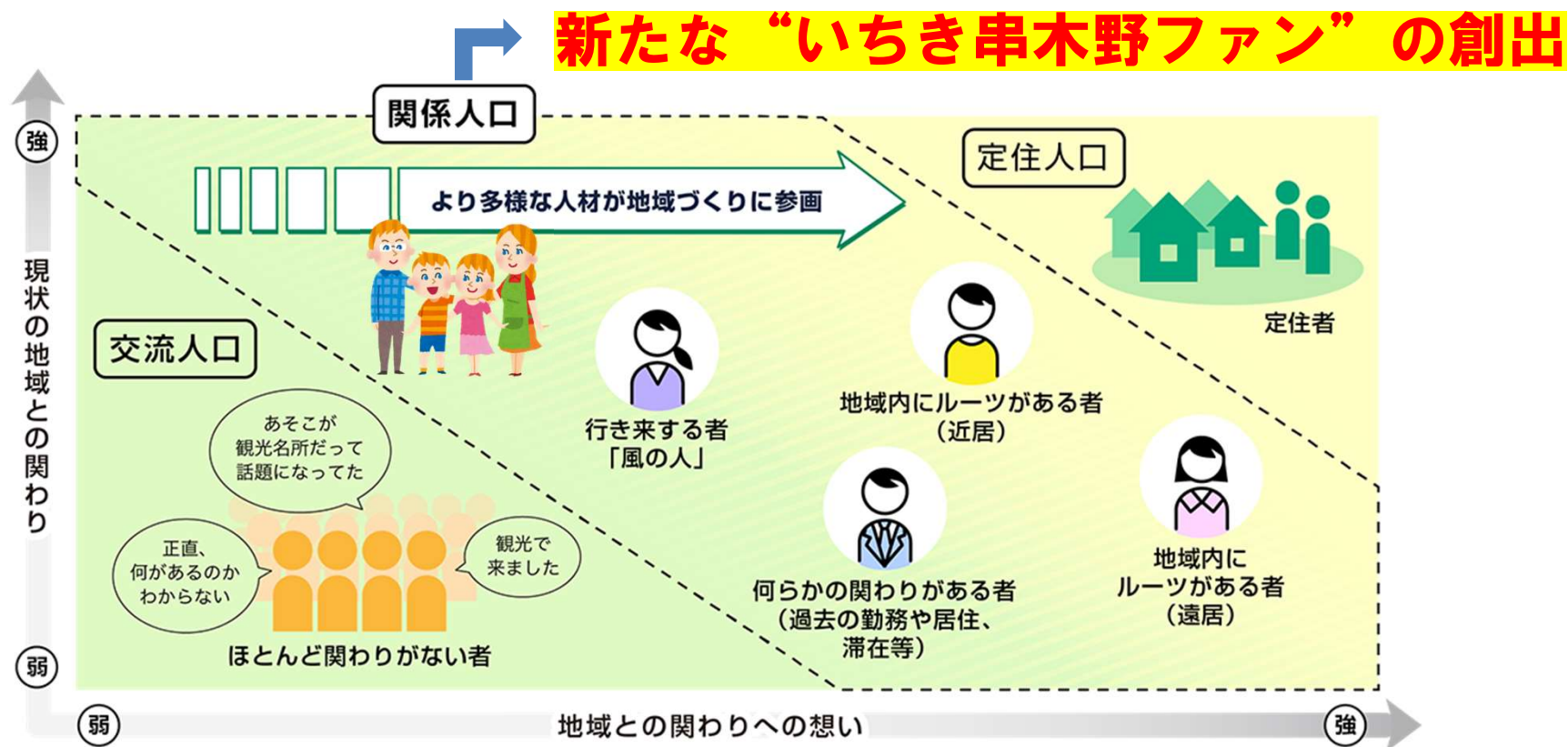
② 信頼度が高い

③ 市内経済の活性化

○留学生受け入れについて

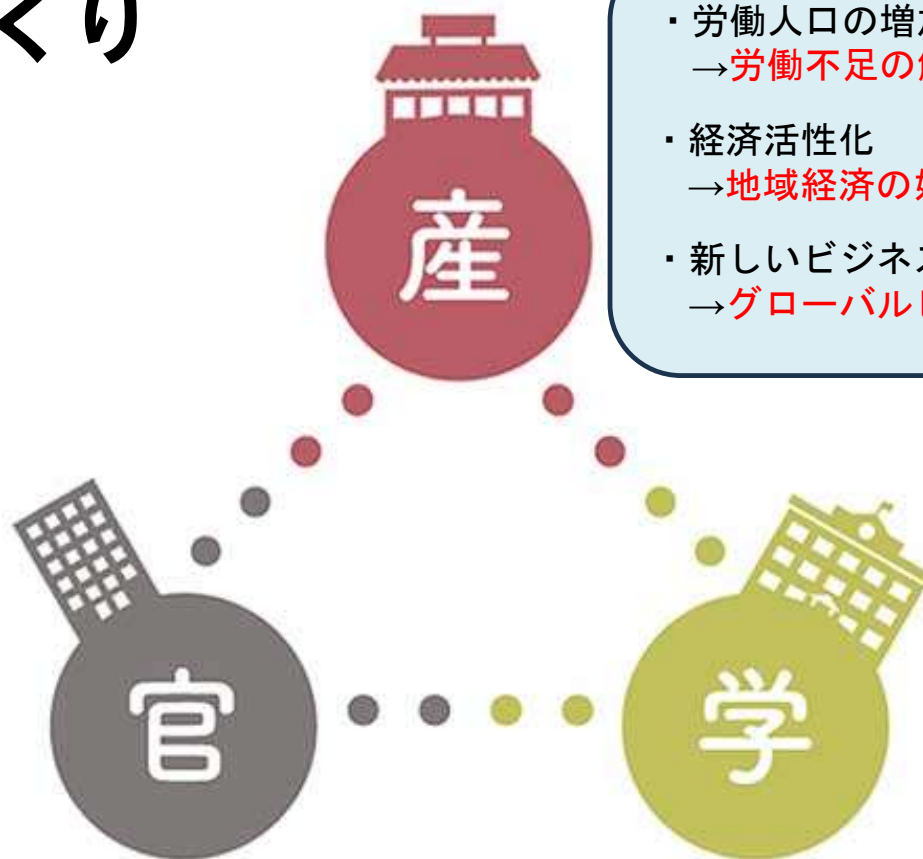
	受入れ期間	特色（受入れ人物像）
神村学園 日本語学科	1年6ヶ月 ~ 2年 ※長期留学生	<ul style="list-style-type: none">・進学/就職を目指す・日本語能力試験の合格
市立 日本語学校	1週間 ~ 1年 ※短期留学生	<ul style="list-style-type: none">・文化体験/交流メイン・旅行者やワーホリ等

○関係人口の創出



出典：総務省「地域への新しい入り口 関係人口ポータルサイト」より

国際色豊かでワクワク する学校づくり



- ・ 労働人口の増加
→ 労働不足の解消
- ・ 経済活性化
→ 地域経済の好循環
- ・ 新しいビジネスチャンス
→ グローバルビジネス

- ・ 定住人口の増加
→ 税収の増加
→ 財政の安定・充実
→ 様々な政策が可能に
- ・ 様々なPR材料に
→ 市としての独自性が出る
- ・ 国際交流の活性化
→ 新たな関係人口作り

- ・ 様々な価値観に触れられる
→ グローバル人材の育成
- ・ 在日外国人児童の受け皿
※県内では名山小学校のみ
- ・ 国際交流/多文化共生の発信地
→ 空き教室の有効活用
→ 世界に拓けた学校作り

○2040年（将来）の目指す姿

『多文化交流、グローバル教育の推進』

- ・ 市民と外国人が触れ合う機会の創出
- ・ 外国人が日本語を学びやすい環境の創出



空き教室を活用した外国人の受入

日本人と外国人が共生できるまちづくり、グローバル人材の育成
⇒特色のあるまちづくり、移住・定住の促進



ひとが輝き 文化の薫る

世界に拓かれた まち